

## 数学系

教員数	教員等数 (人)	教授 15 (15)	助教授 14 (14)	講師 10 (10)	助手 10 (13)	技官〔準研〕 1 (1)	
	異動状況 (人)	退職・転出 5 (6)	昇任 2 (1)	採用 2 (3)	学内 -		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		35 (41)	49 (53)	66 (79)	24 (27)		
	受賞数(件)	-					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	24 (29)	63 (70)	52,550(65,730)		
		学内プロ	13 (14)	32 (46)	7,600(7,600)		
奨学寄附金件数・金額			件	千円	(件)	千円)	
受託研究件数・金額			件	千円	(件)	千円)	
	受託研究員	人 (人)					
施設・設備							

・ ( ) は前年度の数値を示す。

### 1 数学系の活動

原則として、毎月第2木曜日に、助手、講師、助教授、教授の教官及び準研究員、技官、事務官の全構成員による学系会議を開催し、数学系としての全般的な活動について審議、検討を行っている。さらに、学系会議では、毎月の評議会、研究審議会、教育審議会についての詳しい報告並びに自然科学類運営委員会の活動報告を行い、大学内における数学系としての活動の指針にしている。特に重要な議題については、構成員全体の意見、考えが反映されるように、できるだけ公正に情報公開を行い、議論を活発化している。そのために、学系運営委員会、図書委員会、カリキュラム委員会、計算機委員会等の小委員会を通じて、常に、数学系としての活動について、将来を見据えた検討を行っている。

また、個々の構成員の活動については、学系長が中心となって、種々の相談に随時応じると共に、きめ細やかな個人面談、掲示物、電子メール等を通じて、学系内の教職員が、お互いに自由に意見交換ができるような環境作りに努めている。

今年度末に、開学30周年で初めて、日本数学会年会がつくばキャンパスで開催され、参加者数約千人、一般講演、特別講演、総合講演の合計約400の研究発表が行われた。数学系のスタッフ全員で、年会の運営に精力的に協力した。

地域サービスの一環として、日本数学会年会の前日に、高校生、大学生をはじめ一般市民を対象に、数学を学ぶ面白さ、楽しさ、さらには現代数学の最先端に触れて貰うことを目的として「市民講演会」を開催した。また、例年通り、全国の高校生を対象とした体験学習及び近隣の市町村の高等学校、生涯学習センター等への講師派遣を行った。

### 2 自己評価と課題

本学系の教官の専門分野は、大きく分けて、代数学、幾何学、解析学、情報数学の4分野から成る。各分野とも、社会的ニーズに応じて、数学の様々な分野への応用を視野に入れた幅広い研究・教育活動を行い、国内的にも、国際的にも高く評価されている。具体的には、日本数学会の国立10大学の主要メンバーとして活動し、また、文部科学省の科学研究費補助金の採択件数、交付合計金額とも高い位置にある。さらに、助手、講師、助教授、教授の層を問わず、国際的な研究集会に招聘される教官が多く、学問的な国際交流が活発に行われている。今年度は、ブルガリア、ガボン、韓国、中国から外国人研究者を受け入れ、パリ第6大学(フランス)、バルイラン大学(イスラエル)、北京師範大学(中国)との大学間交流の協定を継続している。また、日本学術振興会特別研究員1名、外国人特別研究員1名を受け入れた。

人事面で、学系内の活性化を図るために、転出、昇任等による欠員の補充に際しては、毎回、公募を行っている。今年度は「数学系における教員人事の手順・方法」を作成し、人事選考に関する公正化、透明化を図った。将来にわたる大きな課題として、外部評価の際に指摘されたように、分野によっては助手層、講師層、助教授層がやや高齢化していることが挙げられる。

### 3 その他特記事項

今年度は、数学系のホームページを大幅に改定して、より情報開示を進め、社会に開かれた学系を目指すように努力した。また、各構成員による自己点検、自己評価を情報公開するために、今年度も、数学系全体の教育・研究活動に関する年次報告書を作成した。